



写真 3 40℃、KOH エタノール溶液/クロマグロ
3mL/g-wet の場合のろ過残さ

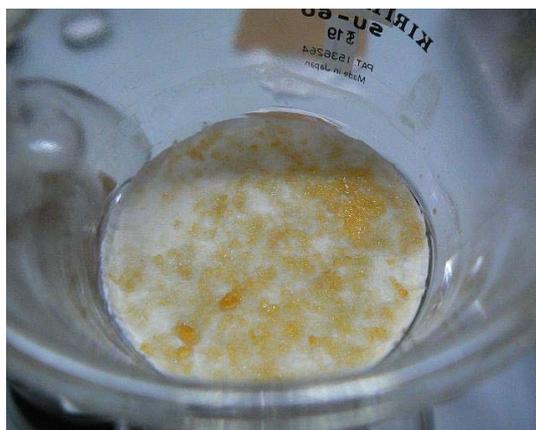


写真 4 40℃、KOH エタノール溶液/クロマグロ
5mL/g-wet の場合のろ過残さ

表5 各種アルカリ分解法の条件と分解結果のまとめ(1)

	A法	A法改良法	B法		B法改良法	
反応温度(℃)	90	90	20		40	
KOHエタノール溶液濃度(mol/L)	1	1	1		1	
KOH溶液/魚(mL/g-wet)	5	5	3		3	5
反応時間(h)	2	2	2	15	2	
分解時の状態	加熱環流		攪拌	静置	攪拌	
ヘキサン/エタノール/水又は食塩水抽出混合比	8/5/50	2/5/5	2/5/5		2/5/5	
食塩水添加の有無	有	無	無		無	
マサバ①脂肪分1.64%	—	(○)	(△)	—	—	(△)
マサバ②脂肪分11.1%	分離できず×	(○)	△	—	—	(△)
クロマグロ脂肪分49.8%	(分離できず×)	○	×	×	×	△

注1) ○:十分に分解可、(○):未実験だが他の条件結果から十分に分解可。

×:分解不十分、(X):未実験だが他の条件結果から分解不十分。

△:ろ過時に残さが認められるため、分析対象物が損失する可能性あり。

—:分解できる可能性があるが優先度が低いので未実験。

注2)A法とその改良法では、夾雑物が多くなり、90℃還流反応装置が必要であるため、やや危険。